

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2018・11月号

石川県学校生活協黒字化 3 年計画の最終年

りんご産地見学ツアーが実施されました。

❖ おいしいりんごの見分け方を学びました ❖



11月10日(土)午前8時30分に金沢駅集合で、ツアーは出発しました。目的地は、11月恒例のチラシ「産直市場」で紹介している信州産直組合です。午後1時30分から3時頃まで、りんご園でのりんご狩りとりんごの選別見学、りんごについての質疑応答を行い、大変有意義なツアーでした。

まずりんご狩りです。一本のりんごの木に800~1000個のりんごを実らせるそうです。その中からおいしいりんごを選ぶのですが、選び方は三つ。一つ目は、表面を触った時にざらざらしているもの、つるつるしているものは未成熟だそうです。二つ目は、お尻の中のポッチが閉じているものではなく開いているものを選ぶ。三つ目は、お尻の色が鼈甲(べっこう)色のものであること。この三つを頭に入れて、5個を各自収穫しました。りんごの選別は、糖度14度以上のものが出荷されていました。質疑応答では、この産直組合では、農薬は通常より30%減、肥料は有機肥料だけで栽培しているそうです。

りんごについていろいろと分かって大変面白く、また参考になったツアーでした。来年は、どこへ行こうかなと楽しみにしています。皆さんも是非ご参加下さい。

2018年度10月 ▲388万円の赤字。計画より148万円の悪化

石川県学校生活協の2018年度10月末決算は、経常損失金▲388万円です。計画は▲240万円ですから148万円の悪化です。10月の業績悪化の原因は、自主供給(売上)の利益が目標比93%、代行指定店の利益が目標比57%となったのが業績悪化の要因です。エシカル運動の「つながろう応援活動」の供給高が、計画比142%で目標額を大幅に超えたので喜んでいたのですが、10月の秋の全員利用運動の供給高が目標に比べ78%と大きくダウンしました。供給はアップダウンを繰り返しています。一喜一憂しながらも、年度末には25万円の黒字をゴールにたどり着きたいと頑張っています。

みなさんの石川県学校生活協です。石川県学校生活協をもっともっと利用してください。お願いします。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

シリーズ 第3回 《プリマヴェーラ》 北本 豊春

前回の名画紹介に続いて、今回もウフィツイ美術館に所蔵されている、ポツティエツリの名画を取り上げたいと思います。前回の「ヴィーナスの誕生」と双壁となるポツティエツリの名画と言え、プリマヴェーラを挙げなくてはならないでしょう。この絵画にも、ギリシャ神話の神様がでてきます。右端では、妖精クロリスを、西風の神ゼフィルスが誘惑しようとしています。神様に比べて妖精と言う弱い立場のクロリスは、とても不安げな様子を見せています。ゼフィルスの妻となり、花の神フローラに変身したクロリスは、華やかな花模様の衣をつけて、辺りを歩き始めます。表情には少しの不安もなく、堂々とした余裕さえ見えます。左側には美の女神ヴィーナスが立っています。中央ではヴィーナスの侍女である三体の美の女神たちが踊っています。女神たちは細い腕を伸ばして指を絡めています。一番左端には戦の神マーキュリーが立っています。女神たちを守っています。上の方にはヴィーナスの息子キュピッドが浮かんでいます。このキュピッドが問題です。この名うての悪戯小僧は、目を隠して弓矢を構えています。このキュピッドの放つ矢は、どこに飛んでいくか知れません。矢尻の方向を辿ってみると、真ん中にいる貞節の女神を狙っているようにも見えます。キュピッドの矢に当たれば恋に狂ってしまうと言う不穏な結末にもなりそうです。

編集後記 ロサンゼルスは キャッシュレスの街

1か月前、アメリカ合衆国のロサンゼルスに友達と二人で行ってきました。完全ツアーではなく、飛行機のチケットとホテルがセットになった旅行ツアーを使いました。ですから、三度の食事はなしで、夕食はほとんどリトル東京の日本人経営の居酒屋に行っておりました。ロサンゼルスは初めてなのですが、今回びっくりしたのは、買い物で現金(ドル札)を使わず、カード払いが当たり前だったことと、スマホの情報が日本より進んでいたことです。しばらくすれば日本もこのような状況になるだろうと思いました。電車のチケット、スーパーの買い物、食堂での支払い、タクシーの支払いが全てカードでOK、それが普通の状態です。それと、もっと驚いたのはスマホの進化です。私はまだスマホは使っていないのですが、カードの支払からスマホの支払いに進化していてビックリでした。私はもうついていけません。でも、ついていけなくても生きては行けます。(ほその)